ザ・トライアングル

Shima Haruka: Basting and Fieldwork

嶋春香：仮縫いと野良仕事

3/5–6/23, 2024

The Triangle

京都市京セラ美術館
Kyoto City KYOCERA Museum of Art

嶋春香：仮縫いと野良仕事

2024年3月5日(火)–6月23日(日)
–
京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル
–
主催：京都市
–
協賛：株式会社 江寿

「ザ・トライアングル」について

「ザ・トライアングル」は当館のリニューアルオープンに際して新設された展示スペースです。京都ゆかりの作家を中心に新進作家を育み、当館を訪れる方々が気軽に現代美術に触れる場となることをねらいとしています。ここでは「作家・美術館・鑑賞者」を三角形(トライアングル)で結び、つながりを深められるよう、スペース名「ザ・トライアングル」を冠した企画展シリーズを開催し、京都から新しい表現を発信しています。

Shima Haruka: Basting and Fieldwork

Tuesday, March 5–Sunday, June 23, 2024
–
The Triangle, Kyoto City KYOCERA Museum of Art
–
Organizer: City of Kyoto
–
Sponsor: COHJU corporation

The Triangle

The Triangle is a space newly created for the reopening of the Kyoto City KYOCERA Museum of Art. It aims to nurture emerging artists, especially those associated with Kyoto, and to provide opportunities for museum visitors to experience contemporary art. In order to connect the artist, museum, and viewer in a triangle and deepen those connections, the space hosts an eponymous series of special exhibitions and presents new artistic expression from Kyoto.

北西エントランス（ザ・トライアングル地上）および「グリーンバックに浮かぶオブジェ」シリーズより《網状の器》（左）、《魚の花瓶》（右）
From the series,"Object on Green Background": *Reticulated Vessel* (left), and *Fish Vase* (right) at Northwest Entrance

作家ステートメント

今回、箱の中に「庭」を作った。庭の素材はオブジェ、紙、石、草木、布、マケット、更には過去の自作などの材料を用いて構成されている。物と物との関係性や、その時々の気分で配置する物や場所は変化し、私個人の判断によって庭の様相は変わっていく。

例えば、目の前で咲いていたはずの花瓶の花が、いつのまにか頭を下げて散っていること。私が感じている時間の感覚と、それ以外のものとでは、内在する時間が違うのだとふと気づかされることがある。

目の前にあるものは常に変化し、劣化へと向かっていく。それらを完全にコントロールしきれない事はわかりつつも、変化していく「時間」を捉える事はできないだろうか。

庭に混在するいくつもの時間、そしてそこから立ち上がって見えるものの存在を、絵画を通して考えてみたい。

嶋春香

Artist Statement

For this exhibition, I created a garden in a box. The garden is made out of sculptural objects, paper, stone, plants, fabric, maquettes, and even one of my past works. The interrelationship between objects changes, as do the choices of location and object as per my mood at any given time, and so the appearance of the garden shifts depending on my personal decisions.

A flower in a vase that was in bloom might, for instance, suddenly droop and scatter its petals. I might be suddenly made aware that my sense of time differs from the time that exists within other things.

The world in front of us is constantly changing and deteriorating. Though fully controlling this is indeed impossible, can we nonetheless capture its forever-shifting temporality?

Through my paintings, I would like to reflect on the layers of time intermixing in the garden and the things that emerge from that.

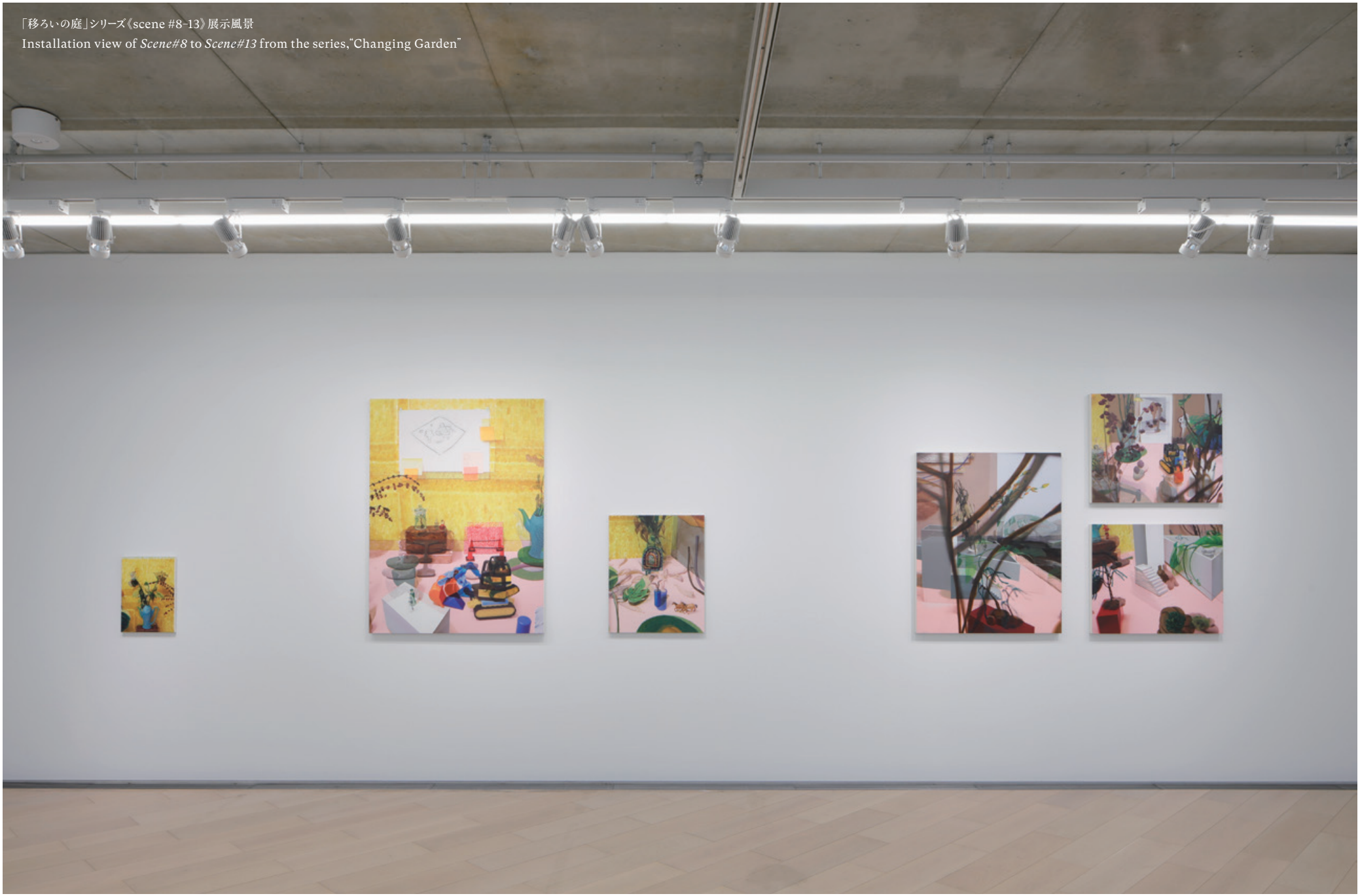
Shima Haruka

展示室入口および《移ろいの庭 scene #15》
Changing Garden Scene #15 at the Gallery entrance

展示風景（地下）
Installation view (basement)

《庭のフレーム》
Garden Frame

左:《移ろいの庭scene #6》
右:《移ろいの庭scene #17》
–
Left: *Changing Garden Scene #6*
Right: *Changing Garden Scene #17*



「移ろいの庭」シリーズ《scene #8–13》展示風景
Installation view of *Scene#8* to *Scene#13* from the series,"Changing Garden"

上:《移ろいの庭scene #12》
左:《移ろいの庭scene 10》| 下:《移ろいの庭scene #13》

–

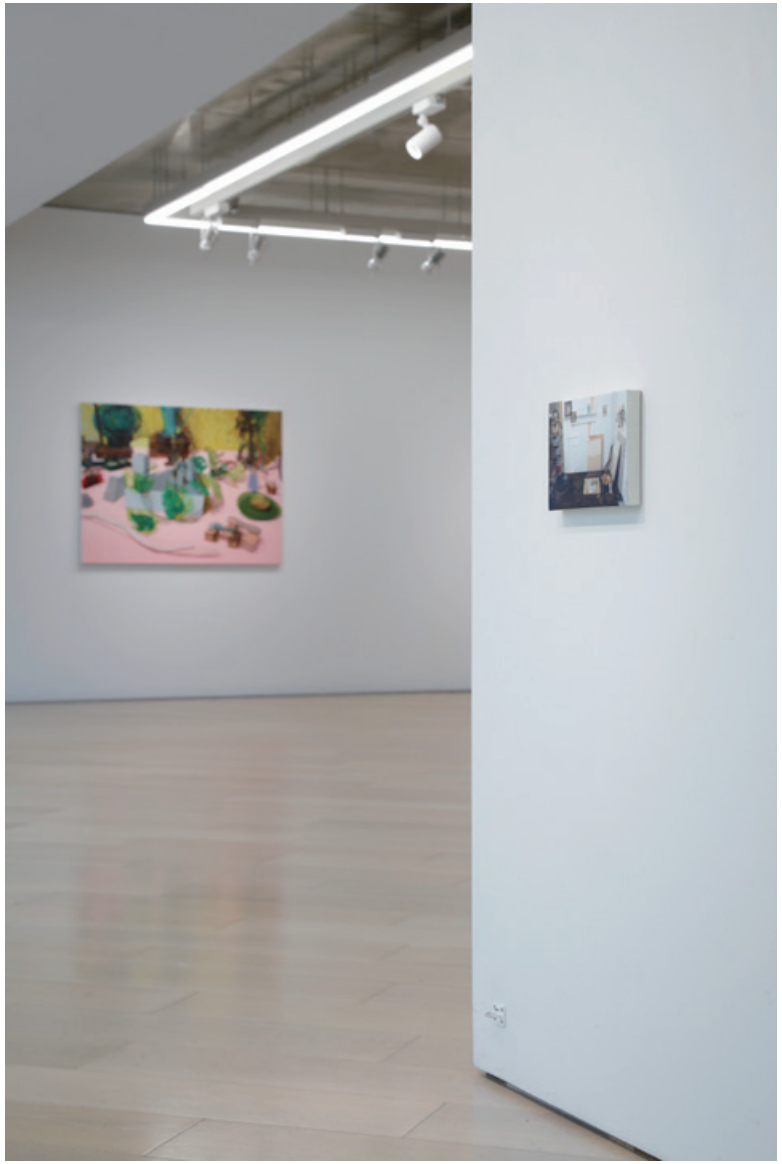
Top: *Changing Garden Scene #12*
Left: *Changing Garden Scene #10* | Bottom: *Changing Garden Scene #13*

《移ろいの庭scene 11》
Changing Garden Scene #11

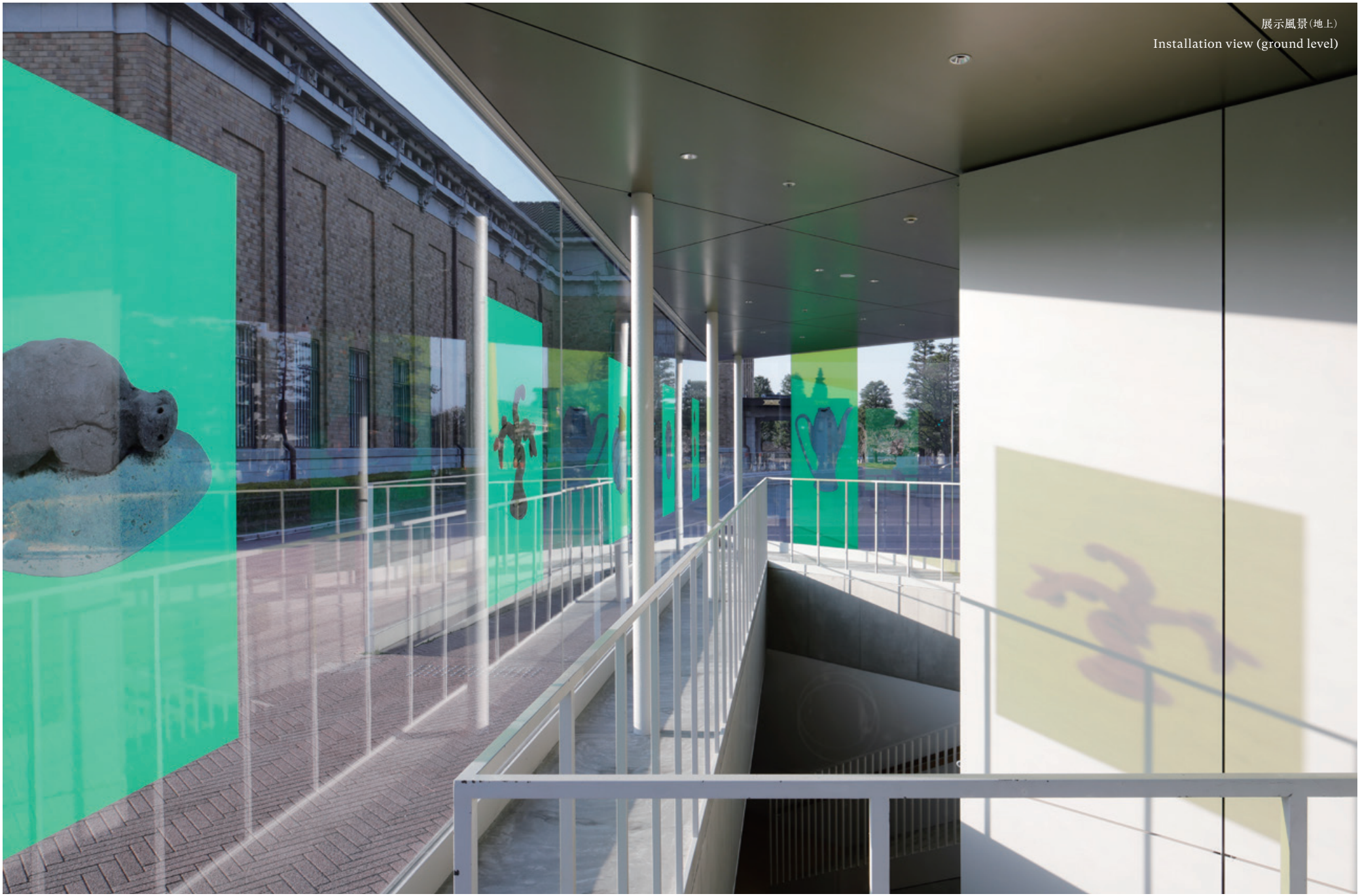
「移ろいの庭」シリーズ《scene #1–2, #4, #18》展示風景
Installation view of *Scene #1, Scene #2, Scene #4, Scene #18* from the series,"Changing Garden"

左:《移ろいの庭scene #1》
右:《移ろいの庭scene #4》
–
Left: *Changing Garden Scene #1*
Right: *Changing Garden Scene #4*

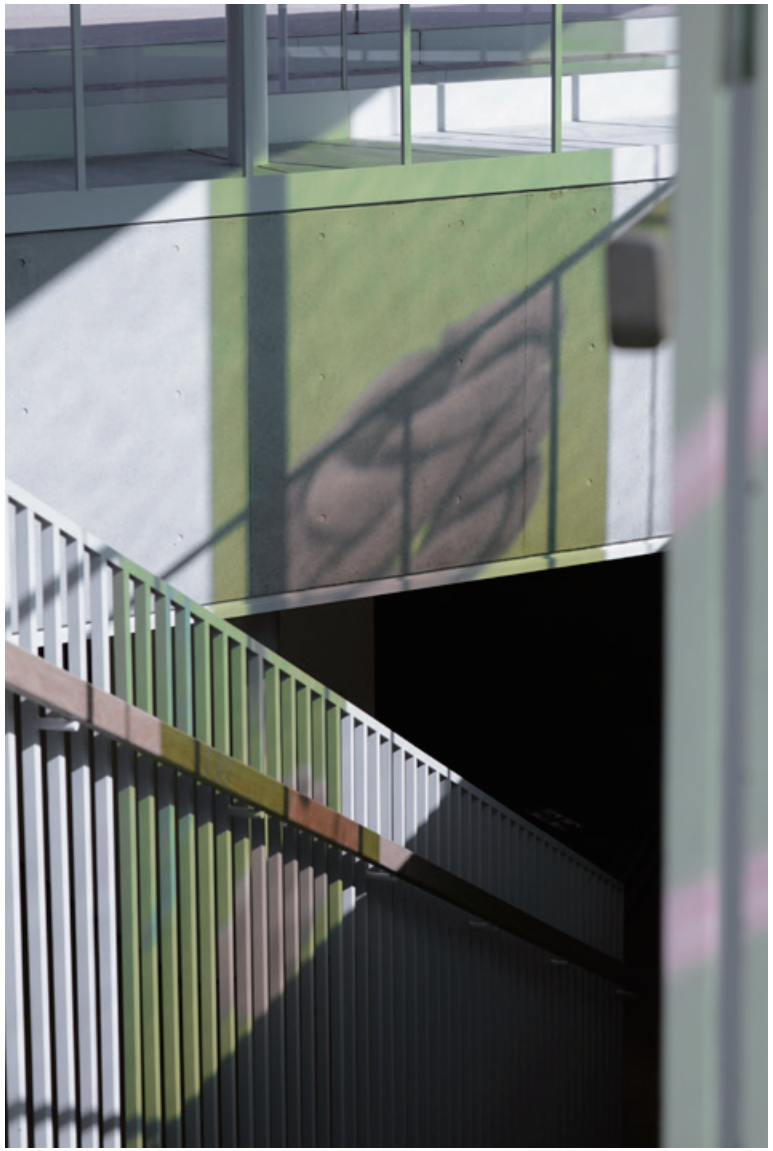
《移ろいの庭scene #16》展示風景
Installation view of *Changing Garden Scene #16*



《庭のフレーム》展示風景
Installation view of *Garden Frame*



展示風景（地上）
Installation view (ground level)



左：展示風景（地上から地下）
右：グリーンバックに浮かぶオブジェ《3つの石飾り》展示風景
–
Left: Installation view (from ground level to basement)
Right: Installation view of Object on Green Background: Three Stone Ornaments

北西エントランス展示風景（地上）
Installation view of Northwest Entrance (ground level)

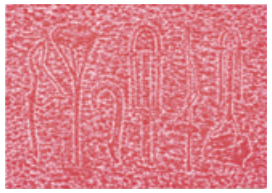


Fig. 1《TOUCH#圖版41》2017

Fig. 2《グリーンバックに浮かぶオブジェ《紐状の飾り》》2024

Fig. 3《移ろいの庭 scene #8》2024

閉じつつ開く——「仮縫いと野良仕事」によせて

吉峰拡

1. はじめに

対象とどのように向き合い、またどのように描くか、という問いは、常に絵画の制作に付きまとうものだ。この問いに対して、嶋春香の制作は「理解するために描く」と答えることができるだろう。

嶋はこれまで博物館や美術館などが所蔵する一次資料としての「もの」を写した「資料写真」をモチーフに、その図像と自身との関係性をテーマとしてきた。これまでの代表的な「Touch」シリーズ（2014–）**Fig. 1**では、一本の筆に一色で濃淡をつけ、イメージに筆で触れるように痕跡を顕在化させる方法で描いてきた。また「蒐集」シリーズ（2019–）では日常的に消費する牛乳パックを支持体に、古道具から日用品までを描きながら、絵画と記録を行き来する表現を模索している。また「Transformation」シリーズ（2022–）では異なる文脈の図像をいくつもの層として重ね、鑑賞者に多様な解釈の可能性をひらく新たな造形を描き出してきた。

このような多岐にわたる作品からは、眼前の（不確かな）対象を本質的に理解しようとする姿勢や、そのために様々なアプローチをとってきたことが窺える。

2. タイトルと展示概要

タイトルの「仮縫い」は製作途中の服の状態を指す服飾用語で、本展では一時的な状態という意味で使用される。また、「野良仕事」は田畑に出て行う仕事を意味するが、作家は、そこに日常の中で繰り返し行う手仕事という意味を見出している。タイトルは、恒常的に続く手仕事とそれによって形作られる一時的な状態を表している。

本展は、作家が「庭」と呼ぶ自作の模型をモチーフとした、新作の絵画作品を中心としている。この「庭」という呼称から示唆されるように、嶋はモチーフと自身との関係を、庭と庭師になぞらえている。庭師が日々庭を手入れするように、作家もまた日々モチーフに向き合う。本展の作品は、作家がモチーフと結んだ一時的な関係性を提示するものであり、動き、変化し続ける絵画のあり方の模索とも言える。

本展は、地上と地下2つの展示空間に展示された合計25点の新作によって構成されている。地上では、フィルムに印刷された写真作品「グリーンバックに浮かぶオブジェ」シリーズの10点がガラス面に貼り出される。地下の展示室内には「移ろいの庭」と題されたシリーズの絵画14点のほか、立体作品の《庭のフレーム》（p.8）が展示される。

3. 本展コンセプトと作品について

「グリーンバックに浮かぶオブジェ」シリーズに写る紐や花瓶、粘土細工、切花などは、嶋が見つけたり、蒐集したり、あるいは自らの手で作り出した、いわゆるファウンド・オブジェである。作家はこれら使用価値の失われた日用品などに「愛着を感じた」としており、プラスチックや粘土などを素材としてブリコラージュ（寄せ集め）するように「庭」を構成している。特徴的なのは映像合成を想起させるグリーンバックを背景とし、即物的に提示されている点[1]、そしてオブジェが「移ろいの庭」シリーズの絵画中に描かれている点である。例えば《紐状の飾り》**Fig. 2**は《移ろいの庭 scene #1》（p.12｜左）や《scene #4》（p.12｜右）に見ることができる。また《魚の花瓶》（p.3｜右端）は「移ろいの庭」シリーズ《scene #8》**Fig. 3**や同《scene #11》（p.10）、《scene #17》（p.8｜右）などにも登場する。作品同士が関係性を持っていると言えるだろう。

地下展示室には《庭のフレーム》とそれを囲むように絵画シリーズ作品「移ろいの庭」が展示される。鮮やかな黄色の背面とピンク地の床を持つ《庭のフレーム》は、嶋の過去作品（「Touch」シリーズのひとつ）が素材として使用された、嶋の野良仕事先の「庭」である。そこには何れのオブジェも配置されておらず、展示空間全体のほぼ中心に位置している。ここを起点に、展示室の上下左右へ抜け出したオブジェ群が絵や写真の中に登場しているかのようである。

そして「移ろいの庭」は、作家が制作した「庭」を様々な視点と時間から描いたシリーズだ。地上の写真作品に写るオブジェのほか、植物やおもちゃ、白いスチロール模型、過去作品のマケットなど、様々なものがこの庭に配置されている。本シリーズを見ると、ある図像の上に同じイメージが重ねて描かれていることに気付くだろう。嶋が新たに試みた制作手法は、次のような段階を踏んでいる。

［1］「庭」を複数の視点から観察、写真撮影し、

1　ここには、嶋のこれまでの取組における「資料写真」への関心がよく現れている。嶋はこれまでカタログや図録を手に取り、正倉院宝物やアイヌの農具、ドイツの民藝品など様々なものをモチーフにしてきた。そしてその観察と理解のために歴史的な背景を記述したテキストや先入観ではなく、造形に着目するという視覚言語的なアプローチを用いる。対象の色・形・質感などを客観的に観察するという視点と、作家自身の経験を重視している。

［2］そのうち特定の視点を元に絵具等を用いて描き[2]、
［3］絵画面が仕上がった段階で、改めて同じ構図の写真を撮影、
［4］写真データを、キャンバスの絵画面にUVプリント[3]で印刷する、
というものだ。
こうして出来た画面には、異なる時点の図像が意図的に重ねられ（しかし少しだけズレるように）、おもちゃのクレーン車が動き、馬が走り、咲いていた花が枯れる様子が見てとれる。作家が試みているのは、ひとつの画面に異なる時間軸を複層的に存在させる「時間の変化」の表現である。

この「時間の変化」には、本展示作品に内包された時間だけでなく、嶋の過去作品との関わり方や制作手法の変化、そして本展の構造も含まれている。すなわち前述のように《庭のフレーム》には過去作品が用いられており、また「移ろいの庭」シリーズ《scene#11》や同《scene#4》にはオブジェの一つとして過去作品のマケットが描かれている。また「庭」をモチーフに絵画制作するという手法自体も、十数年前に試みたものだったという。今回の試みについて、嶋はコロナ禍や出産・育児などが契機となり自己を振り返る機会が増えたことを理由に挙げている。そして私たちは「いま」「ここ」において「庭」の最新の状態を観ながら、絵画を通じて過去の時間軸を観ていることになる。複層的な時間の変化が展示全体にも及んでいる。

4. 閉じて開く、ネットワークとしての展覧会

ここで改めて展示構成について触れつつ、本論を総括してみたい。

特定のモチーフを資料写真化した「グリーンバックに浮かぶオブジェ」シリーズが地上に、それらオブジェのある風景を描いた「移ろいの庭」シリーズと、両者をつなぐ存在としての《庭のフレーム》が地下に展示されている。そして、本展のあちこちに同じオブジェが繰り返し登場する。複数の作品で登場する要素―例えば《庭のフレーム》の特徴的な十字の木枠やピンク色の床、黄色の背面などは、鑑賞者がオブジェ同士や作品同士の位置関係を理解するための重要な手がかりとして機能する。絵画はそれ単体で成立しながら、同時に写真作品や他の作品とも関係性をもち、相互に指し示し合っているのである。

そして展示室外、タイトルウォール横に展示された《移ろいの庭 scene #15》（p.5）は、アトリエの一角で画家によって描かれている最中の「庭」が描かれている。いわば展示空間全体に張り巡らされた関係性を俯瞰する視点であり、嶋は意図的にこの場に同作を展示している。

このように、本展はそのシンプルな見た目に反して、［a］作品同士が関わり合う関係性、［b］モチーフが指し示し合う循環的な構造、［c］展示全体に通底する複層的な時間、という要素で構成される。このような視点に立つとき、本展はある種、自己言及性を伴った、一時的に閉じたネットワークを形成しているとも言える。だが同時に、別の観点からは、周囲と関係し合いながら緩やかに開くシステム[4]でもある。モチーフの造形的な不思議さ・ユニークさや、鮮やかな色彩、オーバーレイされた図像は鑑賞者に親しみと関心を抱かせ、絶妙な高さに展示された絵画は能動的な鑑賞を促している。太陽の光を受けた写真作品が生み出す柔らかい黄緑の光が、地下の展示室を照らすとき、鑑賞者はネットワークの中へ入り込む感覚を得られるだろう。

本来的には、庭園も借景など周囲の環境に適応しながら、閉じつつ開いた世界観を作り出すものであることに気が付く。嶋は今後も「庭」を用いた作品制作を続けていくという。今後どのような仮縫いの姿を私たちに見せてくれるのだろうか。

よしみね・ひろむ
京都市京セラ美術館アシスタントキュレーター／コーディネーター

2 嶋はこの段階で何度かオブジェを動かしている。その日の気分によってモチーフに介在することを「野良仕事」と表現しており、「自分も耕されるような感覚」と語る。「ザ・トライアングル『嶋春香：仮縫いと野良仕事』京都市京セラ美術館における関連プログラムvol.1 アーティスト・トーク」（実施日：2024年4月28日）

3 UVプリントは、紫外線で硬化するインクを塗布し、そこに紫外線を照射することで、インクを定着させる印刷技術。

4 本論執筆にあたり、ニクラス・ルーマン（1927–1998年）の社会システム理論における自己言及性について参照した。これは経済や社会、法律などのシステムが自分自身を観察し、それを基にして自己の適応や変革を行い、自己を再生産するということを示した概念で、現代社会の複雑なシステムの理解に応用される。

移ろいの庭 scene #1
キャンバス、アクリル、油彩、
UVインクジェットプリント
53×45.5 cm

移ろいの庭 scene #2
キャンバス、アクリル、油彩、
オイルバー、UVインクジェットプリント
90×78.5 cm

移ろいの庭 scene #4
キャンバス、アクリル、油彩、
オイルバー、UVインクジェットプリント
92.3×78 cm

移ろいの庭 scene #6
キャンバス、アクリル、油彩、
UVインクジェットプリント
97×130.3 cm

移ろいの庭 scene #8
キャンバス、アクリル、油彩、
UVインクジェットプリント
42×29.7 cm

移ろいの庭 scene #9
キャンバス、アクリル、油彩、
色鉛筆、UVインクジェットプリント
65.2×53 cm

移ろいの庭 scene #10
キャンバス、アクリル、油彩、
UVインクジェットプリント
100×80.3 cm

移ろいの庭 scene #11
キャンバス、アクリル、油彩、
色鉛筆、UVインクジェットプリント
130.3×97 cm

移ろいの庭 scene #12
キャンバス、アクリル、油彩、
UVインクジェットプリント
60.6×72.7 cm

移ろいの庭 scene #13
キャンバス、アクリル、油彩、
色鉛筆、UVインクジェットプリント
60.6×72.7 cm

移ろいの庭 scene #15
キャンバス、アクリル、油彩、
UVインクジェットプリント
97×130.3 cm

移ろいの庭 scene #16
キャンバス、アクリル、
UVインクジェットプリント｜14.8×21 cm

移ろいの庭 scene #17
キャンバス、アクリル、
UVインクジェットプリント｜14.8×21 cm

移ろいの庭 scene #18
キャンバス、アクリル、
UVインクジェットプリント｜14.8×21 cm

❶ 庭のフレーム
過去作、パネル、木材
78×96×83 cm

❷ グリーンバックに浮かぶ
オブジェ《紐状の飾り》
透明シート、インクジェットプリント
277.5×130 cm

❸ グリーンバックに浮かぶ
オブジェ《木》
透明シート、インクジェットプリント
277.5×130 cm

❹ グリーンバックに浮かぶオブジェ
《網状の器》
透明シート、インクジェットプリント
277.5×130 cm

❺ グリーンバックに浮かぶオブジェ
《魚の花瓶》
透明シート、インクジェットプリント
277.5×130 cm

❻ グリーンバックに浮かぶオブジェ
《3つの石飾り》
透明シート、インクジェットプリント
78×96×83 cm

❼ グリーンバックに浮かぶオブジェ
《鴨川の陶片》
透明シート、インクジェットプリント
130×86 cm

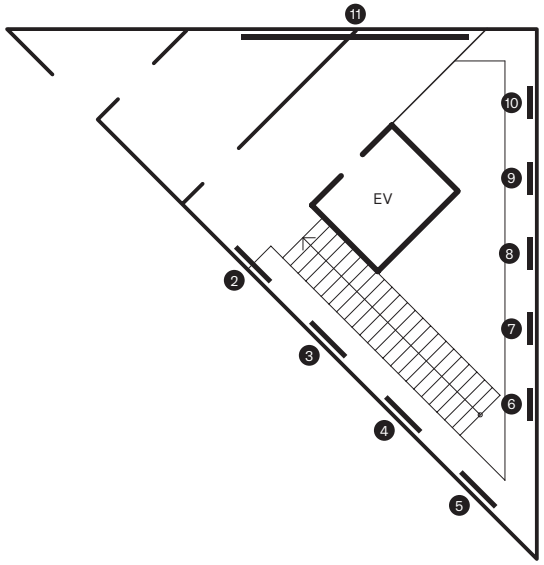
❽ グリーンバックに浮かぶオブジェ
《碧いガラスシェード》
透明シート、インクジェットプリント
130×86 cm

❾ グリーンバックに浮かぶオブジェ
《踊る木》
透明シート、インクジェットプリント
130×86 cm

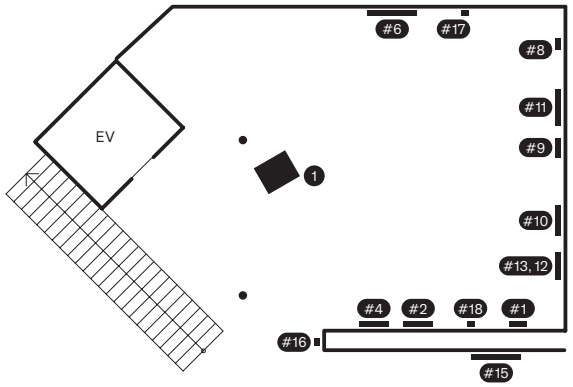
❿ グリーンバックに浮かぶオブジェ
《横たわる人》
透明シート、インクジェットプリント
130×86 cm

⓫ グリーンバックに浮かぶオブジェ
《切花》
透明シート、インクジェットプリント
130×600 cm

1F



B1F



＊ 作品は全て2024年制作、作家蔵。
＊「移ろいの庭」シリーズは作品名と
図中の「#番号」が対応する。
＊ 作品サイズは高さ×幅×奥行(cm)。

嶋春香 | SHIMA Haruka

1989 – 北海道生まれ
2012 – 京都造形芸術大学美術工芸学科洋画コース卒業
2014 – 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了
現在 – 京都府在住

主な個展

2013 –「Portrait」京都市立芸術大学 小ギャラリー
2015 –「Half—length」Artothèque Gallery（京都）
2016 –「MEET／MEAT」Gallery PARC（京都）
2017 –「Author」HAGISO（東京）
2018 –「デラシネ」VOU（京都）
2019 –「洪水の跡と蒐集」ギャラリー 16（京都）

主なグループ展

2012 –「RADICAL SHOW 2012」渋谷ヒカリエ 8／CUBE 1, 2, 3（東京）
–「PHANTASMA –ファンタズマ」Antenna Media（京都）
–「アートピーポーマッピン」京都市立芸術大学ギャラリー＠KCUA
2013 –「AUTUMN HURRICANE」京都市立芸術大学 小ギャラリー・大ギャラリー
–「Reunion 0.1」京都造形芸術大学 Pr PROJECTS room
2014 –「KUAD graduates under 30 selected」京都造形芸術大学 ギャルリ・オーブ
–「アートアワードトーキョー丸の内 2014」行幸地下ギャラリー（東京）
–「京都市立芸術大学作品展」京都市立芸術大学
–「作品中！ 2014」ギャラリー 16
2015 –「93. 未来の途中の先を夢見る。／93. Dream Ahead of “on the way to the future”」ARTZONE（京都）
–「Sign of Happiness」Antenna Media（京都）
–「これからの、未来の途中—美術・工芸・デザインの新鋭 11 人展」京都工芸繊維大学 美術工芸資料館
2017 –「西條茜＋嶋春香 rhizome」京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
–「未来の途中プロジェクト オブジェダール」京町家キャンパス ににぎ（京都）
2018 –「シェル美術賞 2018」国立新美術館（東京）
2019 –「punto practice／study／exercise」ギャラリー16
2020 –「punto×副産物産店＋仲地志保美 “Wunderkammer”」GOOD NATURE STATION 4F Gallery（京都）
2021 –「余の光／Light of My World」旧銀鈴ビル（京都）
–「Kyoto Art for Tomorrow 2021—京都府新鋭選抜展—」京都文化博物館
2022 –「Kyoto Art for Tomorrow 2022—京都府新鋭選抜展—」京都文化博物館
2023 –「ベールの光景」COCON KARASUMA 2F アトリウム（京都）

受賞

2012 –「京都造形芸術大学卒業制作展」学科賞
2013 – 京都銀行美術支援制度 採択
2014 –「京都市立芸術大学作品展」大学院市長賞
2018 –「シェル美術賞 2018」入選
2021 –「Kyoto Art for Tomorrow 2021—京都府新鋭選抜展—」毎日新聞社賞

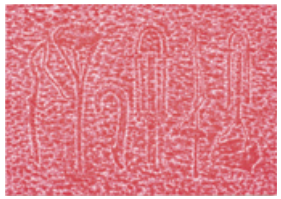


Fig. 1 *TOUCH"Figure 41"* 2017

Fig. 2 *Object on Green Background:Stringy Ornament*

Fig. 3 *Changing Garden Scene #8*

1 Here we can see Shima's interest in archival photography that she has pursued in her previous work. Shima has collected various catalogues, and made objects based on the images inside, including the treasures of the temple Shosoin, Ainu farming tools, and German folk crafts. Instead of her preconceptions or texts detailing the historical backgrounds of the items, she adopts a visual language approach that focuses on form in order to observe and understand the objects. She attaches importance to her own experiences as well as objectively observing the color, shape, and texture of the item.

Closed yet Open: On *Basting and Fieldwork*

1. Introduction

The question of how an artist engages with and depicts their subjects is always concomitant with painting. With Shima Haruka's practice, we can answer that she does it in order to understand.

In her work, Shima has investigated the relationship between herself and images, with a focus on archival photographs documenting the objects that exist as primary sources in the collections of museums. In her signature *Touch* series (2014–, **Fig. 1**) for instance, she applies shading with a single color and brush to manifest traces like brushstrokes on an image. In the *Collection* series (2019–), she uses ordinary milk cartons as the support for depictions of everything from old tools to household goods, exploring a form of expression that shuttles back and forth between painting and record. In the *Transformation* series (2022–), Shima layers up images from different contexts, creating new artistic forms that enable varied interpretations.

Shima's wide-ranging practice reveals her stance of attempting to understand the (uncertain) objects in front of her at an essential level, and the various approaches she has adopted in order to do that.

2. Exhibition Title and Summary

The "basting" in the title is a term from needlework referring to tacking something with long, loose stitches as a preparatory stage in sewing. Here, it is used in the sense of a temporary condition. "Fieldwork" carries a double meaning, signifying literally work done in a field as well as the manual work carried out by the artist on a daily basis. The title expresses permanently ongoing handiwork and the temporary state that it shapes.

This exhibition features mainly new paintings of a model made by the artist that she calls a garden. As suggested by the exhibition title, Shima likens her relationship with motif to that of a gardener and a garden. Just as a gardener takes daily care of their garden, so too does an artist engage with their motifs. The exhibits present the temporary relationship formed by the artist with her motifs, which we might call a search for approaches to painting that are always shifting and changing.

The exhibition comprises a total of twenty-five new works across the underground and above-ground spaces. In the latter, ten pieces from the "Object on Green Background" series of photographs printed on transparent sheets are attached to the glass walls of the space. The underground gallery has fourteen paintings from the *Changing Garden* series as well as the sculptural work *Garden Frame* (p. 8).

3. Exhibition Concept and Works

The string, vase, clay works, cut flowers, and other items in the *Object on Green Background* series are found objects that Shima came across and collected or made herself. The artist feels a sense of attachment to these daily items that have lost their original use value, and creates a "garden" bricolage from the plastic, clay, and other materials. Especially striking is her choice of a green background that recalls green screen in video compositing as well as the pragmatic presentation of the pieces[1] and the way in which the sculptural objects are also depicted in paintings in the *Changing Garden* series. *Stringy Ornament* (**Fig. 2**) for instance, is also visible in *Changing Garden Scene #1* (p. 12, left) and *Scene #4* (p. 12, right). *Fish Vase* (p. 3, right) appears in *Changing Garden Scene #8* (**Fig. 3**) *Scene #11* (p. 10), and *Scene #17* (p. 8, right). The works possess

a certain reciprocity.

The basement gallery features *Garden Frame* and, arranged as if surrounding it, works from the *Changing Garden* series. Comprising a vividly yellow backdrop and pink floor, *Garden Frame* is where Shima created the gardens during her "fieldwork," and incorporates an entry in the *Touch* series. Bereft of sculptural objects, the frame is positioned almost in the center of the gallery. It is as if the objects have escaped the frame to appear in the paintings and photographs arrayed all around the space.

Changing Garden is a series of pictures depicting a "garden" that Shima made from various perspectives. The garden features various items including plants, toys, a white Styrofoam model, and maquettes of a past work, in addition to the sculptural objects that appear in the above-ground photographs. The viewer realizes that the image is layered over another version of the same image. When creating a new work, Shima adopts the following process.

(1) She takes photographs of the "garden" from multiple vantage points.
(2) She then paints a picture of the garden from a certain perspective selected from among the photographs she took.[2]
(3) Once the painting is ready, she takes a photograph (creating a duplicate of the previously photographed composition).
(4) Finally, she then produces a UV inkjet print of the photograph on the canvas of the painting.[3]

On the resulting surface, images from different points in time are intentionally layered (moreover, so that slight discrepancies are revealed): a toy crane vehicle moves, a horse gallops, flowers bloom and wilt. What the artist is endeavoring to do is express shifts in time in which multiple layers of temporality exist on the same plane.

These temporal shifts include not only the time encompassed in the exhibits themselves but also Shima's relationship with her past work, changes in her methodology, and the structure of the exhibition. To wit, a past piece is employed in *Garden Frame*, as mentioned above, and *Changing Garden Scene #11* and *Scene #17* feature maquettes of a previous work as part of the sculptural objects in the garden. Shima had apparently already attempted to explore the motif of a garden through painting more than a decade ago. Her use of the approach this time was spurred by the COVID pandemic as well as starting a family, and the increased opportunities the artist has had to reflect on herself. In the here and now, the viewer regards the latest state of the garden, while also looking back at the temporality of the past through the painting. Multilayered changes in times thus extend over the entire exhibition.

4. Exhibition as a Closed yet Open Network

I would now like to touch on the structure of the exhibition and attempt a summing-up.

The *Object on Green Background* series exhibited above ground turns particular objects into archival photographs, while the *Changing Garden* series featuring landscapes with those objects as well as *Garden Frame*, which links both series, are exhibited in the basement space. Throughout the exhibition, the same sculptural objects reappear. The elements that appear in several works—for instance, the distinctive cross-like wooden frame, pink floor, and yellow backdrop—function as key clues for the viewer to understand the positional relationship between the objects and works. The paintings function on their own, but simultaneously possess a relationality with the photographs and other works, and are mutually indicative.

Changing Garden Scene #15 (p. 6), which is exhibited

2 At this stage, Shima repositions the objects many times. Intervening in the motifs according to her mood that day is, in the artist's words, "fieldwork." In an interview, she has described this as also akin to "plowing myself." Artist Talk, Kyoto City KYOCERA Museum of Art, April 28, 2024.

3 UV printing is a form of digital printing that uses ultraviolet light to radiate and harden ink as it is printed.

outside the main basement gallery, on the wall displaying the exhibition title, shows a garden in the midst of being painted by an artist in a corner of a studio. Its perspective provides an overview of the relationality that extends across the entire exhibition space, and its inclusion here by Shima is very intentional.

In contrast to its simple appearance, the exhibition comprises three elements: relationality among the works; a cyclical structure mutually indicated by the motifs; and the multilayered temporality underlying all the exhibits. From this perspective, the exhibition seems to build a kind of temporarily closed, self-referential network. And yet, from another perspective, it is a simultaneously loose and open system related to its surroundings.[4] The formalistic mystery and uniqueness of the motifs, the vivid colors, and the overlaid images are all familiar and compelling to the viewer, with the paintings expertly displayed to spur an active viewing experience. The soft, yellow light from the photographs catch the sunlight and illuminate the basement gallery, enabling a sense for the viewer of entering a network.

A garden is inherently something that adapts to its surroundings, as shown by the tradition of "borrowed scenery" in Japanese horticulture, while also creating a world that is both open and closed. Shima has said that she intends to continue making work with "gardens." In the future, what kind of garden will she show us?

Yoshimine Hiromu
Assistant Curator and Coordinator
Kyoto City KYOCERA Museum of Art

4 This essay draws on the idea of self-referentiality in the social systems theory of Niklas Luhmann (1927–1998). This means the way in which economic, social, and legal systems monitor us and, accordingly, adapt, change, and reproduce the self. It is a pertinent concept for understanding the complex nature of social systems today.

Changing Garden Scene #1
Acrylic, oil, and UV inkjet print on canvas | 53 × 45.5 cm

Changing Garden Scene #2
Acrylic, oil, oil bar, and UV inkjet print on canvas | 90 × 78.5 cm

Changing Garden Scene #4
Acrylic, oil, oil bar, and UV inkjet print on canvas | 92.3 × 78 cm

Changing Garden Scene #6
Acrylic, oil, and UV inkjet print on canvas | 97 × 130.3 cm

Changing Garden Scene #8
Acrylic, oil, and UV inkjet print on canvas | 42 × 29.7 cm

Changing Garden Scene #9
Acrylic, oil, colored pencil, and UV inkjet print on canvas
65.2 × 53 cm

Changing Garden Scene #10
Acrylic, oil, and UV inkjet print on canvas | 100 × 80.3 cm

Changing Garden Scene #11
Acrylic, paint, colored pencil, and UV inkjet print on canvas
130.3 × 97 cm

Changing Garden Scene #12
Acrylic, oil, and UV inkjet print on canvas | 60.6 × 72.7 cm

Changing Garden Scene #13
Acrylic, oil, colored pencil, and UV inkjet print on canvas
60.6 × 72.7 cm

Changing Garden Scene #15
Acrylic, oil, and UV inkjet print on canvas | 97 × 130.3 cm

Changing Garden Scene #16
Acrylic and UV inkjet print on canvas | 14.8 × 21 cm

Changing Garden Scene #17
Acrylic and UV inkjet print on canvas | 14.8 × 21 cm

Changing Garden Scene #18
Acrylic and UV inkjet print on canvas | 14.8 × 21 cm

❶ *Garden Frame*
Past artwork, panel, wood
78 × 96 × 83 cm

❷ *Object on Green*
Background: Stringy Ornament
Inkjet print on transparent sheet
277.5 × 130 cm

❸ *Object on Green*
Background: Tree
Inkjet print on transparent sheet
277.5 × 130 cm

❹ *Object on Green*
Background: Reticulated Vessel
Inkjet print on transparent sheet
277.5 × 130 cm

❺ *Object on Green*
Background: Fish Vase
Inkjet print on transparent sheet
277.5 × 130 cm

❻ *Object on Green*
Background: Three Stone Ornaments
Inkjet print on transparent sheet
78 × 96 × 83 cm

❼ *Object on Green*
Background: Kamo River Pottery
Inkjet print on transparent sheet
130 × 86 cm

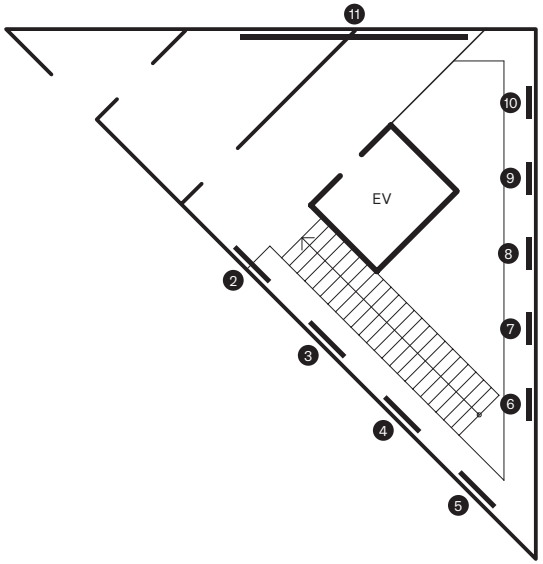
❽ *Object on Green*
Background: Azure Glass Shade
Inkjet print on transparent sheet
130 × 86 cm

❾ *Object on Green*
Background: Dancing Tree
Inkjet print on transparent sheet
130 × 86 cm

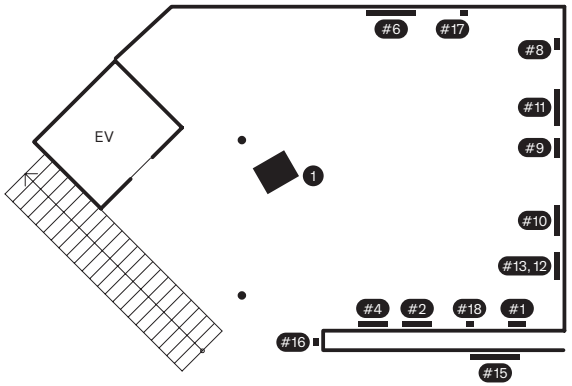
❿ *Object on Green*
Background: Figure Lying Down
Inkjet print on transparent sheet
130 × 86 cm

⓫ *Object on Green*
Background: Cut Flowers
Inkjet print on transparent sheet
130 × 600 cm

1F



B1F



＊ All works were executed in 2024, and are from the collection of the artist.
＊ All works in the series, "Changing Garden" are indicated with a number following "#" in the floor plan.
＊ Dimensions are given in centimeters (height × width × depth).

Shima Haruka

1989 – Born in Hokkaido
2012 – BFA in Oil Painting, Kyoto University of Art and Design
2014 – MFA in Oil Painting, Kyoto City University of Arts
Currently based in Kyoto Prefecture

Major Solo Exhibitions

2013 – *Portrait*, Small Gallery, Kyoto City University of Arts
2015 – *Half-length*, Artothèque Gallery, Kyoto
2016 – *MEET/MEAT*, Gallery PARC, Kyoto
2017 – *Author*, HAGISO, Tokyo
2018 – *déraciné*, VOU, Kyoto
2019 – *Trace of flood and Collection*, galerie 16, Kyoto

Major Group Exhibitions

2012 – *RADICAL SHOW 2012*, Shibuya Hikarie 8/CUBE 1, 2, 3, Tokyo
– *PHANTASMA*, Antenna Media, Kyoto
– *Art People Mappin'*, Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA
2013 – *AUTUMN HURRICANE*, Small and Large Gallery , Kyoto City University of Arts
– *Reunion 0.1*, Pr PROJECTS room, Kyoto University of Art and Design
2014 – *KUAD graduates under 30 selected*, Kyoto University of Art and Design Galerie Aube
– art award tokyo marunouchi 2014, Gyoko-dori Underground Gallery, Tokyo
– Annual Exhibition 2014 Kyoto City University of Arts, Kyoto City University of Arts
– Sakuhin-chu, Gallery 16
2015 – *93. Dream Ahead of "on the way to the future"*, ARTZONE, Kyoto
– *Sign of Happiness*, Antenna Media, Kyoto
– *On the way to the Future, and Then: 11 Newcomers of Art, Craft and Design*, Kyoto Institute of Technology Museum and Archives
2017 – *Akane Saijo* & *Haruka Shima: Rhizome*, Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA
– *Future on the way Project Objet d'art*, Kyoto Machiya Campus Ninigi, Kyoto
2018 – Shell Art Award 2018, National Art Center, Tokyo
2019 – *punto practice / study / exercise*, galerie 16
2020 – *punto x byproducts Market + Shihomi Nakachi "Wunderkammer"*, GOOD NATURE STATION 4F Gallery, Kyoto
2021 – *Kyoto Art for Tomorrow*, The Museum of Kyoto
– *Light of My World*, Former Ginrei Building, Kyoto
2022 – *Kyoto Art for Tomorrow*, The Museum of Kyoto
2023 – Sense of the veli, 2F Atrium, COCON KARASUMA, Kyoto

Awards

2012 – Kyoto University of Art and Design Graduation Exhibition Faculty Award
2013 – Selected for the Kyoto Bank Art Research Support Program
2014 – Kyoto City University of Arts Annual Exhibition Graduate School Mayor's Award
2018 – Selected for the Shell Art Award 2018 exhibition
2021 – Kyoto Art for Tomorrow 2021 The Mainichi Newspaper Award

嶋春香：仮縫いと野良仕事

展覧会
吉峰拡（京都市京セラ美術館）

カタログ
- 編集
吉峰拡、野崎昌弘、国枝かつら（京都市京セラ美術館）
- 翻訳
ウィリアム・アンドリューズ（pp.22–24）
- 撮影
来田猛

デザイン
Rimishuna

発行日
2024年8月31日

発行者
京都市京セラ美術館
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町124
www.kyotocity-kyocera.museum

© Kyoto City KYOCERA Museum of Art 2024

Shima Haruka: Basting and Fieldwork

Exhibition
Yoshimine Hiromu (Kyoto City KYOCERA Museum of Art)

Catalogue
- Edited by
Yoshimine Hiromu, Nozaki Masahiro, Kunieda Katsura
(Kyoto City KYOCERA Museum of Art)
- Translation
William Andrews (pp. 22–24)
- Photography
Koroda Takeru

Designed by
Rimishuna

First Edition
August 31, 2024

Published by
Kyoto City KYOCERA Museum of Art
124 Okazaki Enshoji-cho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8344 Japan
www.kyotocity-kyocera.museum

© Kyoto City KYOCERA Museum of Art 2024